

第1回 財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

## 幼児教育実践学会

研究主題

みんなの輪（和）で一人一人を育てる

～子ども個々が自分らしさを発揮し、それが活かされる集団作り～

学校法人相愛学園 焼津豊田幼稚園

# みんなの輪（和）の中で一人一人を育てる

～子ども個々が自分らしさを発揮し、それが生かされる集団づくり～

静岡県焼津市 相愛学園 焼津豊田幼稚園 杉本清美  
鈴木有希  
清野美栄子

## ◆ 研究主題

みんなの輪（和）の中で一人一人を育てる

～子ども個々が自分らしさを発揮し、それが生かされる集団づくり～

## ◆ 建学の精神・教育目標

《建学の精神》 あかるく こころゆたかに

《教育目標》  
○ じょうぶなからだに ○ いのちをたいせつに  
○ やるきのあるこに ○ よくかんがえるこに

## ◆ 主題設定の理由

子ども主体の生活だろうか？ 幼児期にふさわしい生活だろうか？

本園教育の一貫したテーマは「みんなの輪（和）の中で一人一人を育てる」である。保育の始まりは子どもと保育者、園との出会いであり、その関係を基本とした一人ひとりの育ちにあると思う。そしてこの「子ども個々の育ち」が集団の活性や成長を誘発し、また集団がその機能を高めていくことによって、そこに集う個々の育ちをより一層引き出すという相乗効果のサイクルが生まれるのではないか。

そのような姿を求めていくためには、子ども一人一人をしっかりと支えることができる保育者の存在が欠かせない。今一度、個々のあらわれや育ちを見る保育者の目や感性を互いに見直し、園生活のあらゆる場面で子ども個々の良さが十二分に発揮され、一人一人が自信を持って安定して生活できるよう保育者が支援するとともに、友だちとの関係の中で切磋琢磨し合い、互いに育ち合うことができる集団作りを目指してこの研究主題及びテーマを設定した。

## ◆ 本園の悩み

- ・ 集団としての形や到達目標に目が向きやすい傾向にある。
- ・ 設定保育における子ども一人一人の経験や育ちの読み取りが薄い。
- ・ 設定保育以外の子ども自身が好きな遊びを楽しむ姿や遊んでいるときの状態を読み取る意識が薄い。
- ・ 保育者自身が生活やあそびをの繋がりを意識する気持ちが弱い。

### ◆ 研究の手がかり

- (1) 今話題になっていることばや研究テーマに関することばの共通理解を図る。
- (2) 実践記録をとる…現状の課題を出し合う中から、一人一人の受け止めをより多くするための手立てとして、記録から自分たちの保育を振り返り課題を読み取る努力をしていく。
- (3) 園内保育検討会の実施…子どもの理解や、個と集団を共に伸ばすための考え方や手立てを学ぶ。
- (4) 園環境・教育計画の見直し…「子ども個々の育ちと集団の育ち」の関係において、今一度そのプロセスを見直し、現状の園環境や教育計画がそれを支えるに望ましい形になっているか検証していく。

### ◆ 研究課題

これって本当に遊びなの？

研究指導講師・聖心女子大学教授  
河邊貴子先生



(本園の保育に欠けているもの・課題)

- (1) 好きに遊んでいるときに、遊んでいるから良いのではなく、そこで一体どんなことを経験しているのか読み取ろう。
- (2) みんなで集まって同じ方向に向って遊んでいるときに、やっていることは同じでも、経験していることは違うかもしれない。その個別の経験を読み取ろう。



(保育の見方の転換)

・ 4W1H (When・Where・Who・With・How)

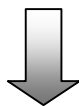
### ・ 体験の多様性と関連性を目指した保育

- (1) 子ども一人一人を受け止め、理解する
- (2) 遊び・活動の充実に向けて、子どもと共にテーマを生成し、環境を構成する
- (3) 遊び・活動の充実を読み取るための記録を充実させる
- (4) 遊び・活動を理解する眼差し、力量をもつ

※ 子どもにとっての活動の意味を考え、子どもの意識のつながりをとらえた保育を構想する。

※ 「何をさせるか」ではなく、「何のために」行うのか考え、「どのように」保育を構想していく

のか、保育者の意識と保育の在り方を問い直す。



(本園の研究テーマに近づく)

**みんなの輪(和)の中で、一人一人を育てる**  
～子ども個々が自分らしさを発揮し、それが生かされる集団作り～

◆ **保育を問い直す手立て**

- (1) 遊び・活動の意味を共通理解していく
  - ・ 毎日の保育は、子どもにとって意味のある多様な繋がりのある体験である。
  - ・ 一つ一つの体験をより充実させる。
  - ・ 「大切にすることは何か」「体験の意味は何か」ということを保育検討会を通して共通理解する。
- (2) 視点を変える
  - ・ 今まであまり気にとめてこなかった子どもの姿に意味を見出す。
  - ・ 一人一人の心に寄り添い、個々を大切にしながら、自分らしさを発揮する集団を作る。
  - ・ 「4W1H」という視点にこだわる保育実践と、子どもの育ちを読み取るための記録を充実させる。
- (3) 環境を整える
  - ・ 園庭の環境・・・四季を感じられるように、遊びが発展していくような遊具の工夫。
  - ・ 保育室・・・子どもが自主的に遊べる用具教材を保育に取り入れる。

◆ **大切にしたいこと**



**3歳児**

繰り返しの遊びからの体験を重ねていくことと、基本的生活習慣の自立。

- (1) 繰り返しの遊びから、『みんなと一緒に楽しい』『またやりたい』という体験を重ねていく。
- (2) 基本的生活習慣の自立を通して、「自分ではできるんだ!」という自己肯定感を味わわせる。

**4歳児**

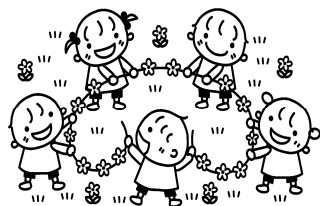
様々な人との関わりを通して経験の場を広げたり、いろいろな感情体験を深めたりしていくことを十分に味わわせる。

- (1) 遊びを刺激し、経験をふくらませ、モノ、友だちとの関わりやつながりを広げる。
- (2) 他との違いを知り、いろいろな感情体験をしながら、友達と一緒にすることの心地良さを味わえるようにする。



**5歳児**

「子ども個々の育ち」が集団の活性や成長を誘発し、また集団がその機能を高めていくことによって、そこに集う子ども個々の育ちをより一層引き出していく。



- (1) 目的や目標のある生活、見通しのもてる生活を作るようにする。
- (2) 多様な場を取り入れ、体験の連続や広がり大切にす。

## 4 歳児 りんご組

○指導講師の河邊先生より年中の遊びのポイントとして…

- ・大きな傘（共通のイメージ）の中で自己発揮し、好きな遊びを十分に楽しんでいるか？
- ・遊びと遊び（体験）がどのように繋がっているか？心の繋がりは感じられるか？



子供達が共通のイメージの中で十分楽しめるような環境設定作りを心掛ける。

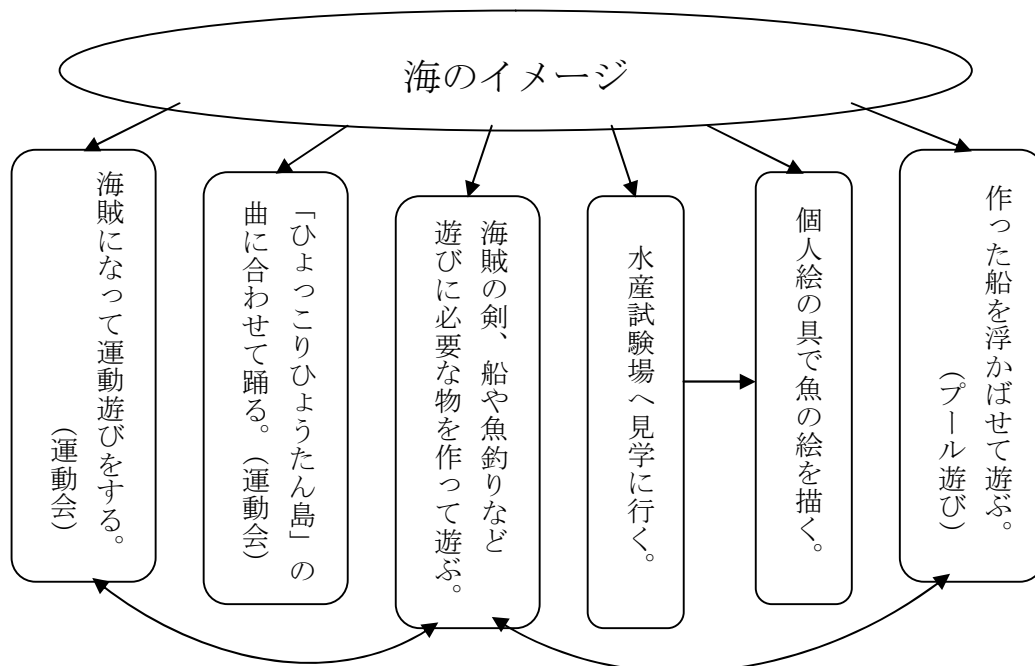
その中で…

- ・新しいクラスの友達にも目を向け、一緒に遊ぶことの楽しさや自分の思いを伝える楽しさを味わう。
- ・いろいろな遊びに興味を持つ。

\*課題\*

- ・いろいろな行事や活動の中でそれぞれ単発の遊びではなく繋がりを感じられるような遊びを展開させるためにはどのような投げかけが必要となってくるのか？
- ・さまざまな視点から遊びを広げ、子供たちの様子を見ていく。

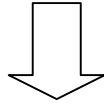
《 1 学期の遊びの様子 》



《 「海」 のイメージの中での遊びの展開・様子 》

○運動会（5月下旬）

- ・海賊になり「ひょっこりひょうたん島」の曲に合わせて踊ったり、波や岩を越えるなど障害物のあるかけっこをする。
- ・衣装を海賊に変身しストーリーのある競技にすることで、役になりきり精一杯頑張る姿がみられた。
- ・みんなで同じ遊びに取り組むことで共通のイメージを持つことができ遊びのきっかけ作りとなった。



保育室でも「海（海賊）」になって  
遊べるような環境作りをする。

○みんなで泳ごう！！（6月上旬）

- ・ K児がダンボールを丸く並べ、その中に水色や青のポンポンを出し海に見立てて遊びだす。
- ・ それを見ていた S児が「私も入れて！！」と中に入り、隣で一緒に泳ぎだす。
- ・ K児が手足を速くして泳ぐと S児も速くするなど、同じ動きをすることをとても楽しんでた。
- ・ 2人が楽しそうに遊んでいる様子を見て、次々と子供達が集まり同じ動きを楽しむ姿がみられた。

[考察]

- ・ 言葉ではなく、友達の遊んでいる様子を見てイメージし同じ遊びや動きを楽しみ、心のつながりを感じながら友達の輪が広がっていく姿がみられた。
- ・ 視覚からイメージしやすい環境作りはとても大切だと感じた。
- ・ ただ環境を設定するのではなく子供達が何に興味を示しているのか？また、子供達から偶発的に出た遊びを見取り、次の遊びへと繋げていけるような援助が大切だと感じた。

○いっぱい描いたよ！！（6月下旬）

- ・ 個人絵の具を使い魚の絵を描く。
- ・ 水産試験場へ行き魚を見てきた後だったため、実際に見てきた海の生き物を描く姿が見られた。
- ・ N児はかけっこをして泳いでいた魚を楽しそうに描いていた。

[考察]

- ・ 水産試験場へ見学に行ったこと、運動会で競争したこと、お家の人にたくさん応援してもらったことなどN児の体験がたくさん絵に含まれていた。
- ・ 実際に体験したことであったので、イメージが膨らみ伸び伸びと楽しそうに描く様子が見られた。
- ・ 出来上がった作品をみんなで見合うと一人ひとりの作品にみんなが「そんな魚いたね！！」と共感あう姿がたくさんみられた。

○タコさんが病気です！！（7月初旬）

- ・ 保育室で海の遊びをしていると A児と E児はビニールシート（海）の上にダンボールを置き、その中に入り病院ごっこをして遊んでいた。
- ・ その様子を見ていた H児が来て「タコさんが病気みたい！！」と、以前魚釣りをする為にトイレトペーパーの芯で作ったタコを渡し、A児と E児が診察をする。それから 3人は作った海の生き物を診察する遊びを繰り返し楽しんでた。

[考察]

- ・ A児と E児は周りの友達の遊びの様子もわかり、その中で自分達は“海の病院ごっこ”を楽しむ姿がみられ、大きな傘のイメージ（海）の中で自分たちの遊びを見つけ楽しんでた。
- ・ 自分達で病院の器具、病人を寝かせるベッドや布団など必要な物を準備し遊ぶ姿に、長い期間をかけ遊びを展開してきたので、自分達の遊びが明確になってきたのではないかと感じた。
- ・ 他の子たちはこの 3人の遊びに気づいていないようでそれぞれ自分達の遊びを楽しむ姿がみられた。私自身、子供達がお互いの遊びが見えにくく、関わりにくい環境だったのではないかと反省が残る。

《実践していく中で…》

「次に必要な経験、環境作り」を見取ることがとても難しい。

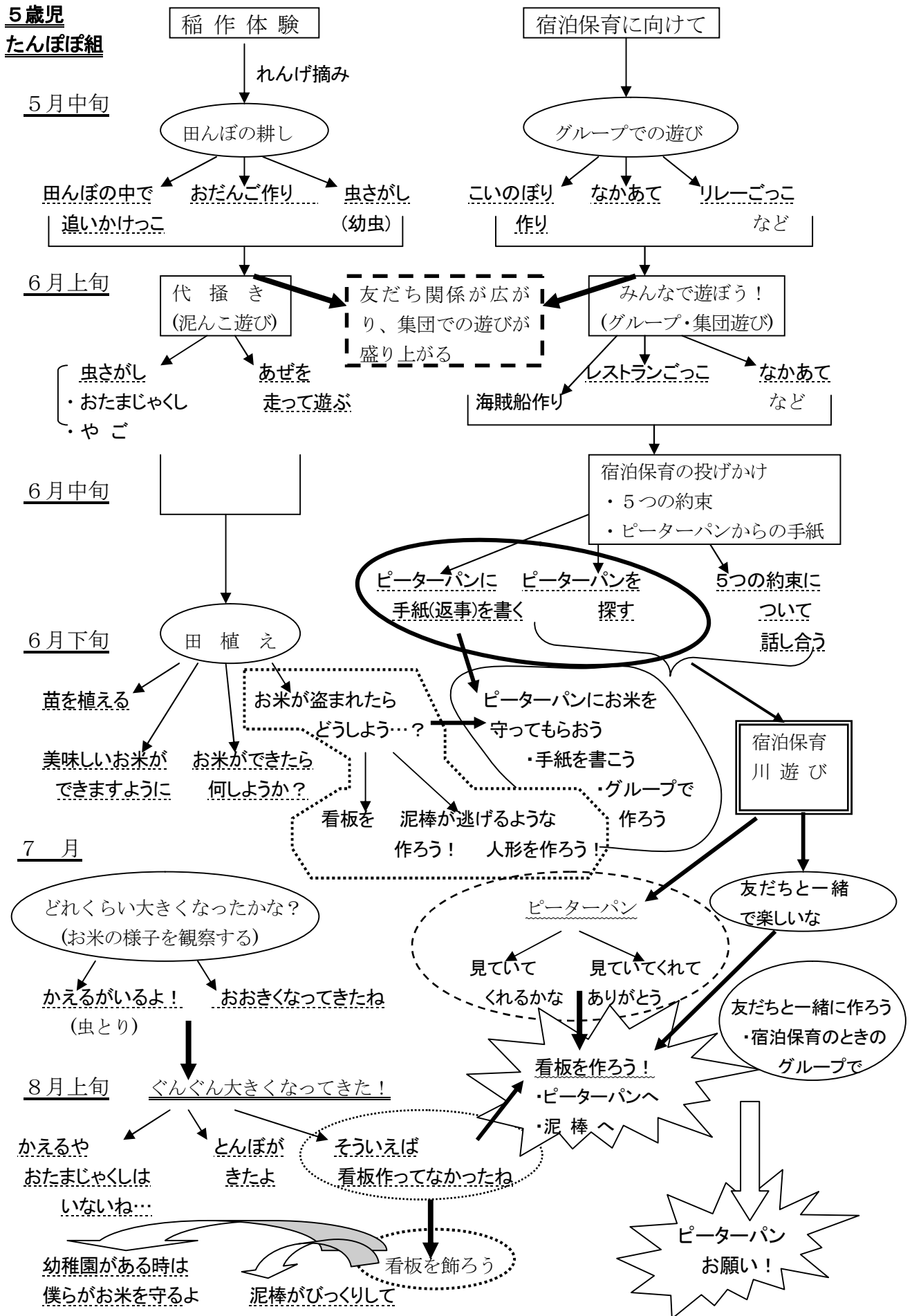
環境を準備しても、子どもたちは興味を示さなかったり、遊びが続かずすぐに終わってしまう

↓ 保育者と子供の気持ちのズレ

- ・子ども達の心に寄り添い、保育者の思いと重ね合わせながら環境設定を考えていく。
- ・遊びと遊び（経験）をどのように繋げていくか？事前の遊びや計画が大切。

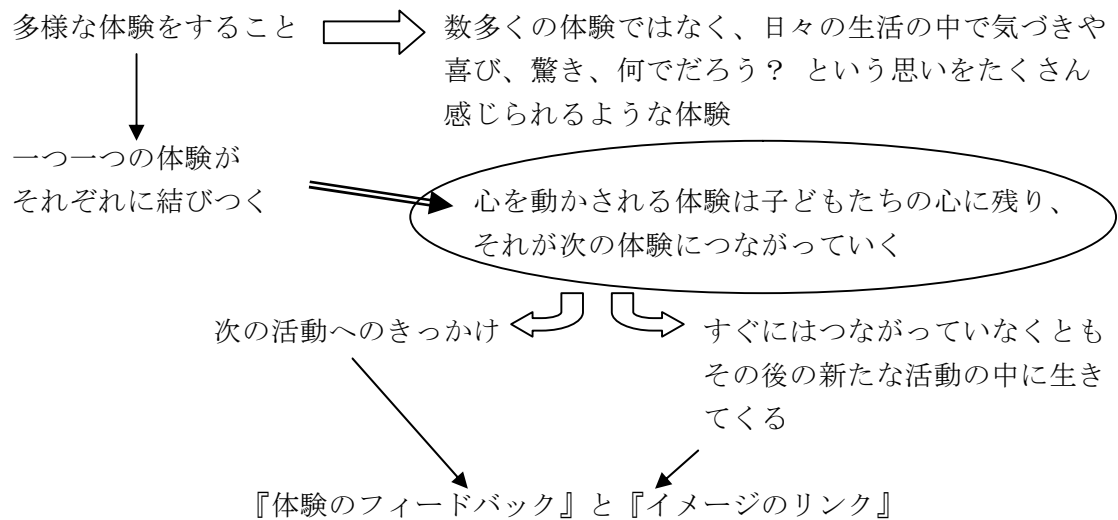


**5歳児  
たんぼぼ組**



逃げ出すように… 今度は人形を作ろう！

## ☞ 体験の多様性と関連性について



## ◆ まとめと課題

- ・「子ども個々が自分らしさを発揮し、それが活かされる集団作り」という研究活動に向かって進んでいく過程の中で、『体験の多様性と連続性を目指した保育』の在り方に本園の課題があるということに気づき、実践していった。
- ・保育者が引っ張りすぎてしまったり、援助が足りないと反省したり、子どもが遊ぶ姿の意味を見取る力量がなかったりと、保育者一人一人が悩み迷いながら進む中で、全員が同じ目標に向かい、同じ方向を向いて保育実践していくという思いの共有は私達の心の支えとなり、改めて自分の保育を問い直していく過程に意味があることに痛感した。
- ・確信の持てるものばかりではないが、体験を通して子どもの心の育ちを実感したり、子どもらしい一言に感動し、遊びと遊びの繋がりが少し見えてきた瞬間があった。それは、私達が課題としてきた「一人一人が違う“経験の意味や育ち”を読み取ることを大切にしてきた」ことの成果だと捉えたい。それは保育者として喜びであり、今までの保育の在り方から少しではあるが、『体験の多様性と関連性を目指した保育』を実感できることでもあった。
- ・以前とは違う子どもの心の成長を感じ、今までと違う視点で子どもの育ちを見ることに一歩踏み出せたことにより、ゆっくりとした歩みであっても私たちは今までとは違う保育の在り方に手ごたえや面白さ、喜びを実感できるようになってきた。
- ・今後も、子どもたちを心を込めて育て、一人一人の心に寄り添える保育者でありたい。そして、これからも自分の保育に甘んじることなく『体験の多様性と関連性を目指した保育』『遊びの充実』『保育の質を高める』ことを目指して進んでいきたい。